

○11番（深谷秀峰議員） 11番深谷秀峰です。

午前中、同僚議員からもありましたが、本年1月、田舎暮らし住みたいまちランキングの子育て世代が住みたいまち全国1位を獲得したことは、これまで本市が進めてきた少子化人口減少対策が高く評価されたものではないでしょうか。くしくも、姉妹都市を結んでいる大分県臼杵市も若者世代が住みたいまち1位となり、これからはお互い切磋琢磨しながら、ぜひ総合1位を目指していただきたいと望むところであります。

それでは、今年、総合1位を獲得したところはどうのような取り組みをしているのかということで、先月、会派の仲間とともに山梨県北杜市を視察してまいりました。北杜市は、人口や1年に生まれる子どもの数、亡くなる人の数は本市とほぼ同じ、地形的地理的条件もそれほど大差はありません。取り組んでいる事業も同じようなものが多いのに、一体何が違うのかというと、私を感じたのは、一つ一つの取り組みの精度が高く、大きな成果が上がっているという点であります。その中でも、年間400件を超える移住件数には大変驚きました。

全国1位までの道のりが果たして長いのか短いのかはわかりませんが、そこを目指すことで常陸太田市がより活性化していくことは間違いないと思います。

それでは質問に移ります。

初めに、観光の振興について、主な観光地の現状と課題についてお尋ねをいたします。

県内一の面積を誇る本市においては、自然環境や歴史遺産などすばらしい観光資源が数多くあります。その中でも特に本市の目玉となる観光スポットとしては、西山荘、竜神大吊橋、里美牧場が挙げられます。西山荘は黄門様で知られる水戸藩2代藩主徳川光圀が晩年に「大日本史」を編さんした隠居所として元禄3年に建てられました。2015年には茨城県で93年ぶり、2件目となる国の史跡名所に指定され、長く本市を代表する歴史的建造物の観光資源として大変重要なものと言えるのではないのでしょうか。

また、竜神大吊橋は、急峻な地形の竜神峡にかかる全長375メートル、高さ100メートルの歩行者専用の吊り橋で、1994年に完成し、2006年までは日本一の長さを誇っておりました。最近ではバンジージャンプが有名となっておりますが、四季折々の山々の景色とともに訪れる人を楽しませています。

里美牧場は、敷地面積520ヘクタールを誇る関東最大級の牧場として、これまで酪農の振興を図るとともに、標高700から800メートルの高原のロケーションを生かした観光を推進してまいりました。敷地内には宿泊施設やレストランがあるプラトーさとみ、天文台、バーベキューハウス、キャビン等があり、周辺には風力発電用風車群や展望台風車もあります。また、そこからの眺望は大変すばらしく、遠くは那須連峰から富士山までもが一望できます。

以上、本市を代表する3つの観光地の概略を申し上げましたが、景気の低迷や観光スタイルの多様化、観光地間の競争、そして東日本大震災の影響などにより、ここ数年、大幅な観光客の増加は難しいと言えるのが現状ではないのでしょうか。

そこで、これらの観光地の震災前、震災後、現在の入り込み客はどのように推移してきているのか、そして、より多くの観光客を呼び込むために、現状をどのように分析しているのかお伺い

をいたします。

また、これらの観光地に設置されている飲食物販施設や休憩施設、遊具施設等の充実策については今後どのように取り組んでいくのかをお伺いします。

次に、里美ふるさと振興公社について、経営健全化計画の見直しについてお尋ねをいたします。

全国では、現在、7,000を超える第3セクターの事業体があると言われております。そのうち約40%が赤字経営、黒字の60%についても、自治体からの補助金や委託事業という行政支出によって黒字化しているのが現状です。里美ふるさと振興公社については、これまでも同僚議員が取り上げてまいりましたが、現在、経営の立て直しが行われている中で、改めてお聞きしたいと思います。

皆様ご承知のとおり、一般社団法人里美ふるさと振興公社は、合併前、里美村の地域特性を生かし、さまざまな切り口で地域振興を図るため設立されました。プラトーさとみやぬく森の湯、ふれあい館、里美斎場などの公共施設の管理運営や農林畜産業の振興にも取り組み、地域の活性化と地元雇用の創出に大きな役目を担ってまいりました。しかし、年々赤字額が増加するとともに、その経営の問題点が指摘され、一昨年、公社と市による経営健全化検討委員会が設置されました。策定された経営健全化計画に沿って、昨年より経営の立て直しが行われているところであります。

そこでまず、先の全員協議会で計画の見直し案が提示されましたが、このような一連の経営改善を図るに至った経緯についてお伺いをいたします。

今回示された経営健全化計画の見直しは、追加対応策として人員配置等の整理、飼料用米事業の廃止、小里牧場の方向性決定、市からの財政支援の4項目となっておりますが、やはり市からの支援がなければこの状況を脱することはできません。そこで、健全化のためにこれまでどのような支援策を行ってきたのか、また、新たに4,000万円の財政支援を行い、経営の安定化を図るとありますが、具体的な内容についてお伺いいたします。

また、全国的に見ても、第3セクターの経営破たんが生じている中で、今後、里美ふるさと振興公社の方向性についてどのように考えていくのか、お伺いします。

以上、答弁をお願いいたします。

**○益子慎哉議長** 答弁を求めます。商工観光部長。

〔岡崎泰則商工観光部長 登壇〕

**○岡崎泰則商工観光部長** 商工観光部関係の主な観光地の現状と課題についての2点のご質問にお答えいたします。

1点目の、観光客の推移から現在の状況とその分析についてのご質問で、西山荘、竜神大吊橋、プラトーさとみについて申し上げますと、まず観光客の推移でございますが、西山荘が震災前の平成22年度が6万5,592人、震災後の平成23年度が3万3,534人、平成28年度が3万4,244人となっております。震災後落ち込んだ入場者数が、平成27年に国指定史跡及び名称に指定されたことで、平成27年度には4万5,000人を超え、回復の兆しが見えましたが、それ以降は3万4,000人台で推移をしている状況で、その要因といたしましては、平成28年1

0月に入場料金が値上げされたこともその1つと考えております。

次に、竜神大吊橋の渡橋者数でございますが、平成22年度が24万5,086人、平成23年度が12万6,417人、平成28年度が25万2,200人となっております。震災後、減少した渡橋者が平成26年3月から始めましたバンジージャンプや、そのバンジージャンプが平成26年8月に放映されたグーグルのCMの効果等もあり、震災前の渡橋者数に回復をしている状況でございます。

次に、プラトーさとみにつきましては、平成22年度が1万6,423人、平成23年度及び平成24年度は施設を閉鎖しておりました、再開いたしました平成25年度が4,964人、平成28年度が6,925人となっております、依然として震災後減少した利用者数が回復しない状況にあります。

2点目として、これら観光施設の整備状況と今後の充実策についてでございますが、西山荘エリアにつきましては、災害復旧工事等により西山御殿の工事が完了し、観光施設としての充実が図られている状況でございます。また、西山の里「桃源」につきましても、今年度、トイレやあずまや、木橋等を改修し、観光施設としての機能の充実を図っているところでございます。

竜神大吊橋エリアにつきましては、今年度、水府観光物産センター2階のデッキスペースを拡張し、オープンレストランとしての機能を追加するほか、子育て家族の利便性を向上させるため、幼児用便器などを設置した授乳室を整備したところでございます。さらに、水府観光物産館を竜神ダム湖での体験型アクティビティを活用した誘客のための拠点施設として、新しく4月にカフェとしてリニューアルオープンをいたします。この拠点施設となるカフェを中心に、バンジージャンプや竜神カヌー、また、周辺施設との相乗効果により誘客拡大を図ってまいりたいと考えております。

今後、観光客を対象とした満足度調査を実施し、既存の観光施設の課題等の把握に努め、観光施策や施設の改善の方向性を検討してまいりたいと考えておりますが、お客様に喜んでいただける観光施設にするためには施設の充実も重要となりますが、さまざまなニーズを持って訪れる観光客に対し、物と心の両面で満足していただけることが肝要でありますので、観光施設の基本でありますおもてなしに対する職員の意識改革や集客のための努力について、私どもはもとより、指定管理者も積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

○益子慎哉議長 総務部長。

〔加瀬智明総務部長 登壇〕

○加瀬智明総務部長 里美ふるさと振興公社の経営健全化計画の見直しについてのご質問にお答えをいたします。

1点目の立て直しに至る背景についてでございますが、従来、施設管理の所管課におきまして、経営状況等に係る評価のほか、売り上げの向上などの経営努力を指定管理者へ求めておりました。そのような状況の中で、里美ふるさと振興公社の決算におきまして、一般正味財産の減少が見られ、平成25年度からは赤字に陥り、そのままの状況が続きますと、数年後の破たんが危惧される状況であることが判明をいたしました。公共性と企業性をあわせ持つ里美ふるさと振興公社な

どの第3セクターは、経営が著しく悪化した場合には市財政に深刻な影響を及ぼすことも懸念をされますことから、出資、出捐をしている立場といたしまして適切に管理指導をするため、総務課におきまして第3セクター全般の総括的管理を行うこととし、早急に公社経営を立て直すため、公社と市におきまして経営健全化検討委員会を平成28年8月に組織をし、公社の抱えている課題、問題点、経営状況等の分析に取り組んでまいりました。

なお、分析をした中では、固定費である人件費の占める割合と原価率が高いこと、独自事業の採算性等が経営を圧迫していることから、これら課題に対する対応策を掲げ、5年間の収支見込みを立てて策定をいたしました経営健全化計画に基づき、公社の経営健全化を推進してきたところでございます。

また、昨年9月の中間決算時における収支精査の際、経営健全化計画と現状の収支におきましてかい離が判明をいたしましたことから、このたび計画の見直しを図ったところでございます。

2点目の、市による支援状況についてでございますが、まず公社の事務処理体制の構築と適切な事務処理及び経営管理を支援するために、平成29年4月より市職員2名を派遣しております。次に、公社の売り上げ増加を目的といたしまして、ぬく森の湯の改修等を平成30年度に行い、これを契機といたしまして、集客力向上等を図ってまいりたいと考えております。また、指定管理施設ごとに収支を精査し、生じる不足額につきましては指定管理料として負担をすることとしております。さらに、新たな支援策といたしまして、公社に対し4,000万円の無利子貸付を行うとともに、黒字施設の余剰金納付を当面の間猶予をする予定としております。

3点目の、市が考える公社の方向性についてでございますが、公共性と企業性をあわせ持つ里美ふるさと振興公社は、地域の振興や雇用の場として重要な役割を担っているものと認識をしております。一方で、このまま経営状況が改善されない場合には、指定管理施設の運営のみならず、公社自体の存続が危ぶまれる状況に陥りますことから、引き続き、公社への適正な支援、指導を行ってまいりながら、公社設立の当初の目的でもあります、地域の振興や雇用の場が将来に向けて確保できるよう、公社の経営改善を図ってまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 深谷秀峰議員。

〔11番 深谷秀峰議員 質問者席へ〕

○11番（深谷秀峰議員） それでは、それぞれの項目について再質問をさせていただきます。

まず、観光の振興ですけれども、今のご答弁を聞くと、本市を代表する3つの観光地の入込客が思った以上に伸びてないというのがわかるような気がします。たしか道の駅が計画されたとき、道の駅を本市の玄関口として、扇の要として、そこから市内隅々まで誘客を図っていくという説明がありましたけれども、昨年、道の駅はオープン2周年、そして、あつという間に来場者も100万人を超えたわけでありまして。一体、あの道の駅から一番近い西山荘とか竜神大吊橋もそうですけれども、どのような誘客の動線を図ってきたのか、お尋ねをしたいと思います。

○益子慎哉議長 商工観光部長。

○岡崎泰則商工観光部長 道の駅から各観光地についての誘客についてのご質問でございますが、道の駅のオープンから観光案内所に2名のコンシェルジュを配置いたしまして、市内の観光施設

の案内を行っているところがございます。案内所での観光案内の状況でございますが、主に西山荘や日帰り温泉、竜神大吊橋に関するものが多くなっておりまして、西山荘の案内件数につきましては、平成28年度が観光案内件数1,359件のうち127件、平成29年度が12月末現在で2,318件のうち200件となっております。

観光案内所におきましては、観光施設やイベント会場への誘客を図るため、デジタルサイネージによる映像での案内や、ポスター、看板等の掲出、また、鯉のぼりまつりやかかし祭りに際しましては道の駅に鯉のぼりやかかしの設置を行いまして、誘客を図っているところでございます。

今後も道の駅で工夫を凝らした観光施設やイベント等のPRを行い、道の駅から各観光施設への誘客を図ってまいりたいと考えております。

**○益子慎哉議長** 深谷秀峰議員。

**○11番（深谷秀峰議員）** ぜひとも道の駅に訪れる人が市内のそれぞれの観光地に足を向けるような対策を図っていただきたいと強く要望したいと思います。

それでは、同じく観光の振興ですけれども、今、国道349号線の4車線化やトンネル工事を含む461の整備が進んでいる状況の中で、縦の線と横の線がよくなれば、恐らく都市部から大型バスで団体客が市内を訪れることも多くなるかと思うんですけれども、そうした大型バスでの団体客の誘致策というのはどういうふうに考えていますか。

**○益子慎哉議長** 商工観光部長。

**○岡崎泰則商工観光部長** 大型バスでの団体客の確保の方策につきましては、平成28年度から団体旅行に対する助成を行っておりまして、団体旅行の誘致促進を図っているところでございますが、さらなる団体客確保のため、東京都や千葉県等の旅行会社等を訪問いたしまして、本市へのバスツアーの造成に向けて、観光施設や体験メニューの情報提供等に力を入れていきたいというふうに考えております。

**○益子慎哉議長** 深谷秀峰議員。

**○11番（深谷秀峰議員）** 家族向けの観光振興と団体向けの観光振興では、やはりそれぞれ大きな差があるんじゃないかなと私は思ってるんですけども、ぜひ旅行会社ともタイアップして、休日になれば、この常陸太田市内に何十台もの大型バスが走っているような状況をぜひとも作っていただきたいと思います。

それではもう一つ、今度は、竜神大吊橋のバンジージャンプの件なんですけど、先ほどご答弁にあったように、マスコミからすれば非常に映像映えがするバンジージャンプをもうちょっとうまく活用して、常陸太田市の観光振興に役立てる必要があるんじゃないかなと思うんですけれども、その方策については何か考えていらっしゃいますか。

**○益子慎哉議長** 商工観光部長。

**○岡崎泰則商工観光部長** バンジー効果によるさらなるPR方策でございますが、竜神大吊橋につきましてはバンジージャンプの効果もございまして、さまざまな映画やテレビ、CMなどのロケ地として撮影が行われておりまして、渡橋者数も増加をしているという状況でございます。テレビ等で放映されることが最も有効な観光PRにつながると考えておりますので、今後もさらに

マスメディアやフィルムコミッション等と連動したPR活動に努めてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 深谷秀峰議員。

○11番（深谷秀峰議員） 以前、会派で足利市を視察してきましたんですけれども、足利市はフィルムコミッションもすばらしいんですが、やはり観光振興の担当の方が、地元の映像がテレビ映えする映像があれば、すぐテレビ局に情報を流すんですよ。そうした取り組みもぜひ今後進めていってほしいと要望しておきます。

それでは次に、先ほど答弁にあって、年間7,000人にも満たない観光客しか来ていないプラトーさとみについてお尋ねをしたいと思います。

プラトーさとみは震災でも施設が傷んだり、また、一番大変だったのは、福島第1原発の事故で放射性物質があつた地域にちょっと降り注いってしまったということで、除染作業をやった中で、それでもやはり回復してないというのは、やはり何か1つ足りないんじゃないかなと思うわけです。特に、よくプラトーさとみと里美牧場に行った人が口にするのが、景色以外何もないと。本当に何もないんですよ。プラトーさとみに併設するローラー滑り台と、それに付随する風車があったかと思うんですが、先日訪れたらもうさび果てて、廃墟のような状態なんですよ。附帯設備がああいう状況では、来た人はがっかりすると思うんです。ですから、プラトーさとみの周辺施設の風車、滑り台または、以前は結構にぎわってたバーベキューハウス、これについては今後どのように考えていくのか、お尋ねをいたします。

○益子慎哉議長 商工観光部長。

○岡崎泰則商工観光部長 まず、滑り台につきましては、震災により使用が不可能となっているため、撤去の方向で考えております。展望台風車につきましても、震災以降、安全のために立ち入りを制限しております。建設から26年が経過していることから、施設の状況等について調査を行いまして、今後の方向性について検討してまいりたいと考えております。また、バーベキューハウスにつきましては、現在、利用できる施設となっておりますが、利用状況を把握いたしまして、これにつきましても今後の方向性について検討してまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 深谷秀峰議員。

○11番（深谷秀峰議員） ぜひとも、撤去するのか整備するのか、はっきりしてほしいと思います。

この後、里美の振興公社についても話しますが、プラトーさとみ、今、振興公社のほうで管理運営していますけれども、やはり観光客を増やすには、行政の担当部署である観光振興課がプラトーさとみでどういうものを作ったらもっと人が来るかというアイデアを出さないとだめだと思うんですよ。振興公社に出せと言っても、今は難しい状況だと思います。

そこで、実は私、平成25年の12月議会で、プラトーさとみの振興策として大学等の合宿誘致を進めてはどうかという提案をしたんですけども、こういうことも考えていていただきたいと、本当は質問したいんですけど、要望にとどめておきたいと思います。

それでは次、里美のふるさと振興公社についてお尋ねをいたします。

ご答弁の中で、市による支援の中で公社の売り上げ増加を目指して、平成30年度はぬく森の湯の改修を行うとありますが、現在でも近隣に類似の施設が多くある中で、施設をリニューアルしただけでは大幅な増収というのは難しいのではないかなと思うわけです。何かその他の対策を考えておいでならば教えてください。

○益子慎哉議長 総務部長。

○加瀬智明総務部長 ぬく森の湯の改修によりますハード面での魅力向上のみならず、改修を契機といたしまして、集客の方法など、ソフト面での向上の必要性はあると考えております。また、振興公社の経営にも係る部分でございますが、例えば送迎バスを運行して来客者を呼び込むこと、また効果的なPR方法の検討、来客をした方がリピートをしたくなるような接遇や魅力ある食事メニューの提供等、公社と市がともにアイデアを出しながら集客力の向上に公社が主体的に進むような方向で努めてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 深谷秀峰議員。

○11番（深谷秀峰議員） 里美の振興公社は抱えている施設が多いんですよね。ぬく森の湯、ふれあい館、プラトーさとみ、斎場。全国を見れば、1つの施設だけでも破たんし追い込まれるような第3セクターがある中で、私は今後、運営の方法等についても検討が必要になってくるのではないかなと思うわけですが、これは今後ぜひとも市が振興公社と一緒に考えていってほしいと要望しておきます。

あと、今回示された見直し案の中で、私が懸念している点が3つほどあります。

1つは飼料用米事業をやめた場合、もしかすると耕作放棄地が増えてしまうんじゃないかなという気がいたします。それでなくても、飼料用米事業がうまくいかなかった1つの理由は、耕作条件が悪いという点が挙げられるんですよね。ですから、ぜひとも担当部署で耕作放棄地が増えないように検討していってほしいと思います。

もう一つは、やはり小里牧場での肉用牛の生産を取りやめた場合、これまでずっと地域の中では畜産業の振興ということをやってきたわけですよ。これも今後、別の方法でぜひとも推進していってほしいと要望いたします。

あともう一つ、一番心配なのは、一般企業でもそうですけれども、経営が悪化すると、しわ寄せは、現場で働いている人にもろに行っちゃうんですよね。今回も振興公社で働いている中で、よく私のところに聞こえてくるのは、これまでも決して給与水準は高くはなかったわけです。その中で、手当がカットされると、もう仕事を続けていくのも難しいという人も中にはおります。もしかするとやめてしまう人が出てきて、優秀な人材が枯渇してしまうんじゃないかなという危惧を抱いております。ぜひともそういうことにならないように、市のほうでも強力で支援のほどをお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。